令和４年度
第１回鹿児島市薬剤師会「薬剤師のための漢方薬草入門講座」次第

日本薬剤師研修ｾﾝﾀｰ認定講座(1 単位)
【オンライン研修】JPALS 研修会コード 46-2022-0045-101

日時：令和　４年　９月２８日（水）　１９：３０～２１：００

形式：オンライン配信（ZOOM）

内容：気血水シリーズ「気について」
林内科胃腸科病院　薬剤師　　新村　赴人　先生

主催:(公社)鹿児島市薬剤師会

ＰＳ項目（参考）
2-2-117　陰陽五行説などの漢方の基本理論を簡単に説明できる
2-2-118　代表的な漢方方剤の構成とその作用を説明できる

薬剤師のための
漢方薬草入門講座
～気血水シリーズ～
「気について」

2022.9.28

林内科胃腸科病院
薬剤師　新村　赴人

本日の内容

〇漢方の基礎知識（前回の復習）

・漢方とは？

・漢方薬の服薬指導について

・漢方薬　服薬指導の基礎知識Q＆A

・漢方薬の処方構造とは？

〇漢方の基礎理論：気血水

～気について～

・気の異常に用いる漢方

漢方とは？

・漢方という言葉の由来

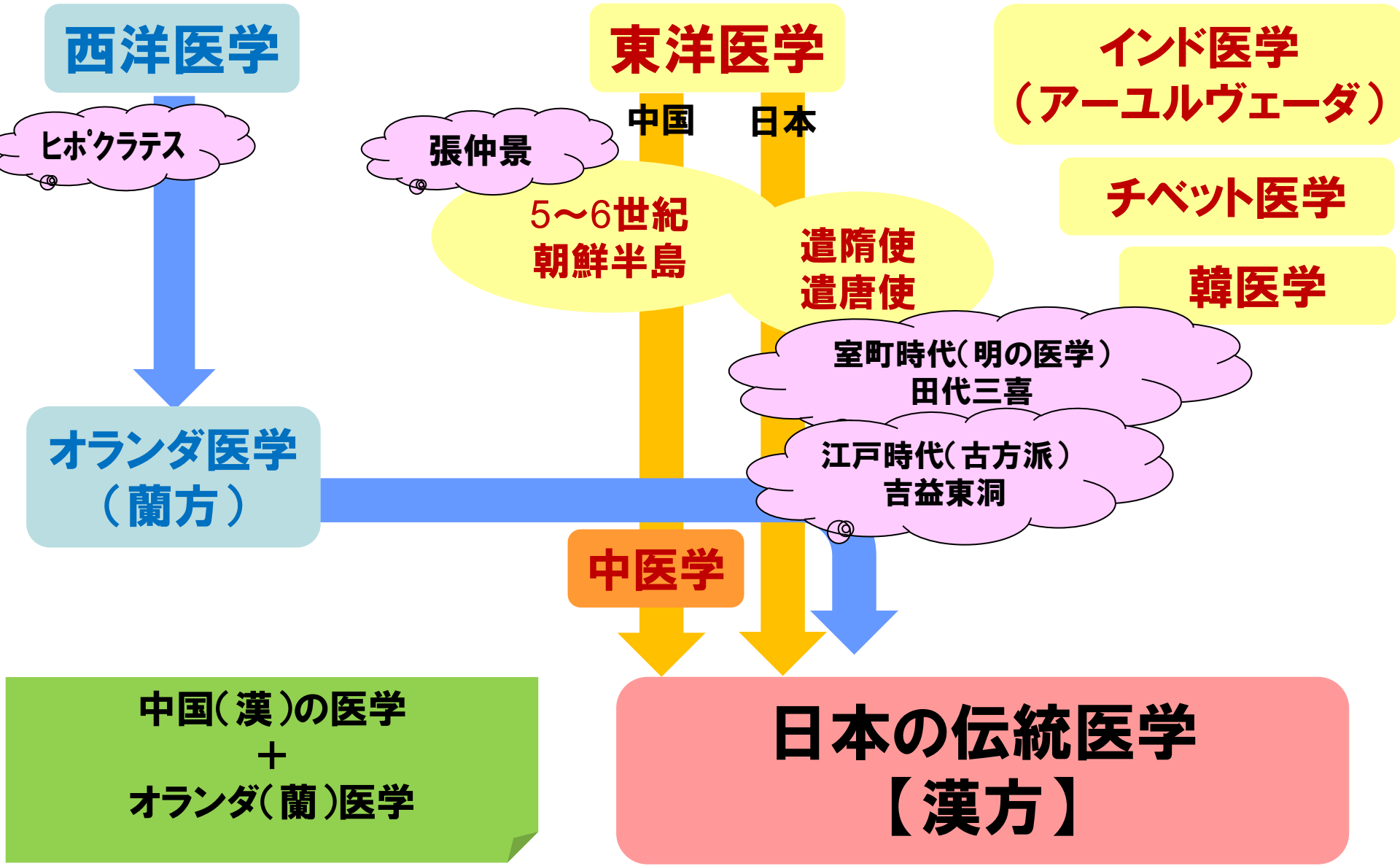
漢方：中国から日本に伝わった医学

蘭方：江戸時代末期オランダから伝わった医学

漢⇒中国

方⇒医術（薬物療法、鍼灸療法、気功）

漢方の歴史


西洋医学
東洋医学
インド医学
（アーユルヴェーダ）
ヒポクラテス
張仲景
中国
日本
チベット医学
5～6世紀
朝鮮半島
遣隋使
遣唐使
韓医学
室町時代（明の医学）
田代三喜
オランダ医学
（蘭方）
江戸時代（古方派）
吉益東洞
中医学
中国（漢）の医学
＋
オランダ（蘭）医学
日本の伝統医学
【漢方】

日本漢方と中医学の学派　まとめ

漢方医学の学派

中国漢方（中医学）

弁証論治

・弁証論治（八綱弁証・気血津液弁証・臓腑弁証・六経弁証・病邪弁証）で治療方剤を決定

日本漢方

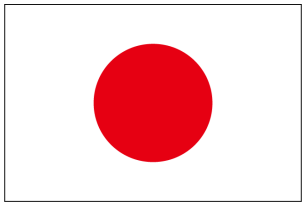
方証相対

・古方派
・後世方派
・折衷派
・山本流(山本巌)
→第三医学

・気血水、六病位、西洋医学、口訣、経験則
などをもとに証を決定

近年、科学的な根拠をもとに漢方をとらえた「サイエンス漢方」や「EBM漢方」もある。

日本漢方と中医学の違い



日本漢方

	気血水	六病位分類	腹診	五臓六腑	八綱
古方派	○	◎	◎		
後世方派	○		△	○	○

・陰陽五行説を基本的に意識していない

中医学

・陰陽五行説とそれから派生した臓腑経絡説が診断・治療の要
・それらをもとに病態を論理的に認識

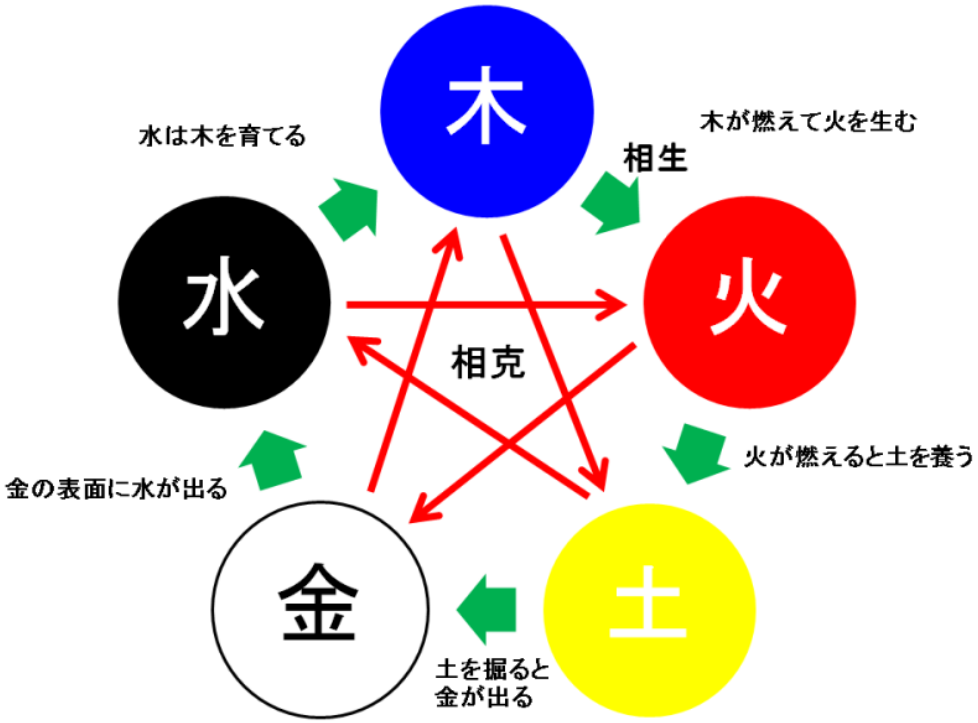
いんようごぎょう
陰陽五行

陰陽五行説とは

黄帝内経 →春秋戦国時代以来の医学論文を整理・編纂した医学書で、前漢末から後漢初期に成立

「素問」：生理、病理などの基礎医学
「霊枢」：鍼灸、治療法などの臨床医学

陰陽五行説が基礎理論



五臓六腑

陰陽五行説の理論を人間に応用

山本巖　第三医学とは

①古来の医学と現代の診断治療医学を統合した、新しい第三の診断治療医学を作ること。

②古典を研究仮説として実験計画による科学的検定を行う。

③薬物的方面について薬能論と方剤学の確立

（生薬中の成分分析や薬理作用の研究のみならず、先人の業績を加味した個々の薬物の薬理作用を明らかにすべきである。）

漢方医学の学習を進める際の注意点

①病態を解釈するための基盤の違い
・中医学派→陰陽五行説を適応する場合が多い
・古方派→陰陽五行説をできるだけ排除する傾向がある
・後世方派→中医学派に近い立場

↓

各学派の特徴を認識して学習に臨む

②創法の考え方や社会背景の違い
・現在の医療用漢方製剤には、約1800年前の古典に収載されたものから、約50年前に創方したものまでが含まれている。

↓

漢方処方の方意は、創方の考え方や社会背景も併せて理解する

漢方治療のながれ①

望診（ぼうしん）

聞診（ぶんしん）

問診（もんしん）

切診（せっしん）

分析

気血水
五臓
寒熱
虚実

証

処方決定

病態認識の種々相

五臓の概念
(中医学では臓腑弁証)

気血水の概念
(中医学では気血津液弁証)

生体の変調

六病位の概念
(中医学では六経弁証)

陰陽・虚実・表裏・寒熱の概念

⇒八綱弁証による診断

臨床でよく使う漢方理論

漢方は、現代医学とは全く異なる独自の理論・概念があります。
その中でも臨床でよく使う漢方理論が「三陰三陽」「五臓論」「気血水」です。

三陰三陽（六病位）

急性熱性疾患のステージ分類。主に急性の病気（感染症・環境要因によるものなど）の診断に用います。

五臓論

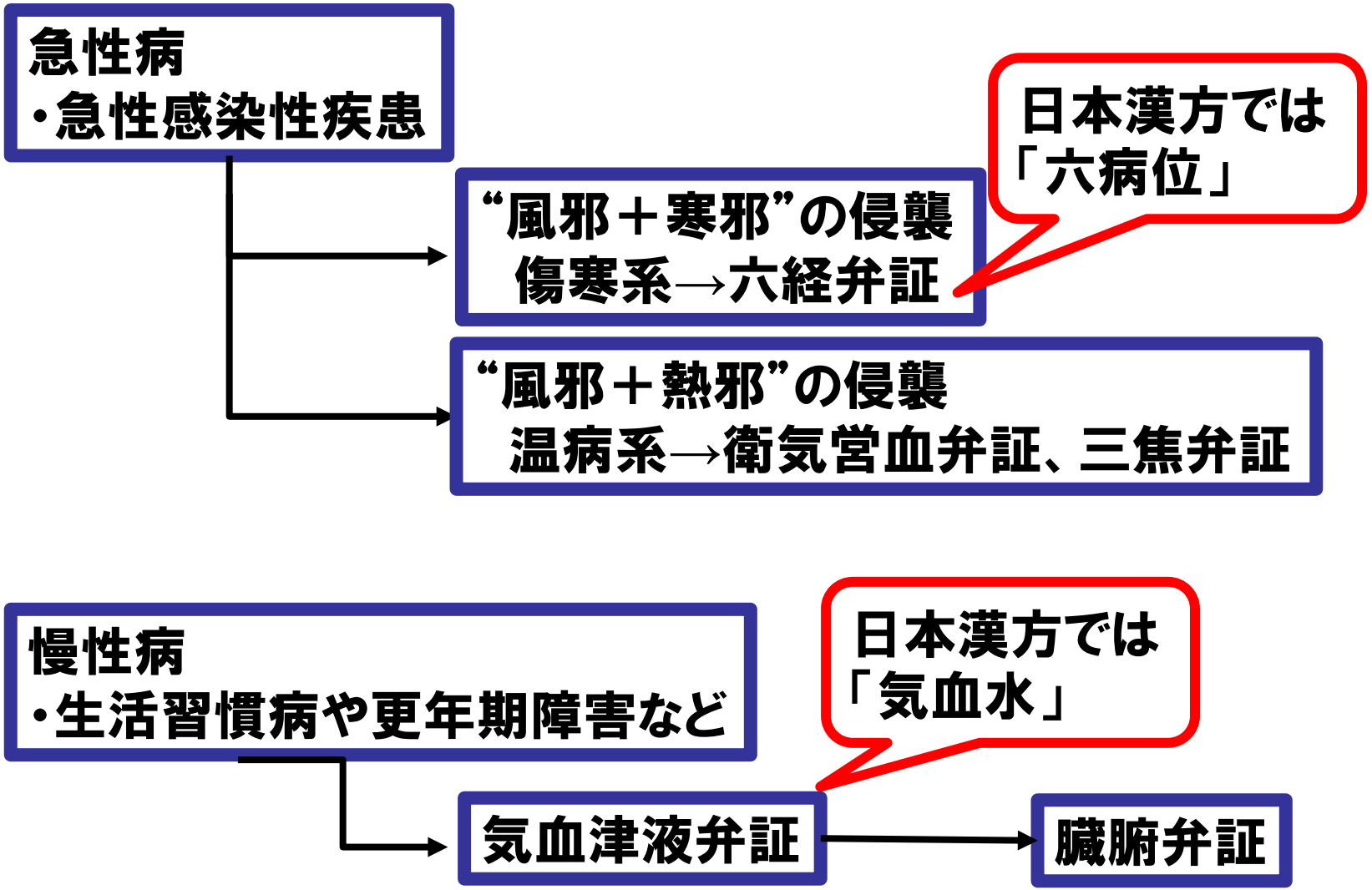
体の機能を五臓（現代医学の臓器とは異なる概念）に分類し、病気を各臓器および臓器同士の関係性の異常ととらえるもの。
慢性的な病気の際によく用います。

気血水

生体の健康状態を気（エネルギー）および血・水（物質）のバランスでとらえるもの。慢性的な病気の際によく用います。

など

漢方治療のながれ②


急性病
・急性感染性疾患
“風邪＋寒邪”の侵襲
傷寒系→六経弁証
日本漢方では
「六病位」
“風邪＋熱邪”の侵襲
温病系→衛気営血弁証、三焦弁証
慢性病
・生活習慣病や更年期障害など
日本漢方では
「気血水」
気血津液弁証
臓腑弁証

漢方薬の服薬指導について

服薬指導のながれ

①処方医から漢方薬についてどのような説明を
　受けたかの確認(腹診や舌診の有無など)

②患者の主訴(主症状)の把握

③適応症の確認(添付文書)

④患者の(漢方的な)体質の確認
　→周辺症状の把握

慢性疾患における
漢方薬の処方の場合

⑤服薬指導
　・効能効果　・服用方法
　・副作用(西洋医学的な視点)　・養生方法など

⑥服薬後のフォロー
　→服用後の症状変化(患者本人による
　　フィジカルアセスメント)

①処方医から漢方薬について
どのような説明を受けたかの確認

漢方薬に対する処方医の立場の違い

・漢方専門医→**腹診や舌診**などを考慮
　古方派、後世派、中医学派など

・西洋医学＋α（漢方薬）→病名漢方

・独学で漢方を習得

③適応症の確認（添付文書）

・メーカーにより適応症が異なる処方の例

香蘇散：

長期処方に注意

ツムラ「風邪の初期」にしか適応なし

コタローは神経症などの慢性疾患に対応

甘麦大棗湯：

ツムラ「夜泣き、ひきつけ」

コタロー「小児および婦人の神経症、不眠症」

麻杏薏甘湯：コタローのみ「イボ」の適応あり

④漢方的な体質の確認について（周辺症状の把握）

- 寒熱：冷えがあるか？冷えの部位はどこか？
- 汗をかきやすい体質か？
- 便秘はあるか？
- 尿の回数や1回の量、色
- 生理周期や生理痛の有無
- 普段の生活について→**養生方法**

（食事：冷たいものや甘いものの摂取、運動、睡眠時間、ストレスなど）

腸内細菌と漢方の関係

※腸脳相関

EBMとNBM

・EBM (Evidence-Based Medicine)

「根拠に基づく医療」

「科学的根拠(エビデンス)」「専門家(医師)の経験・知識」「患者の価値観」の3要素を総合的に判断して治療方針を決めること

EBMとNBM

漢方の服薬指導で大切な考え方

・NBM (Narrative-Based Medicine)

「物語りと対話に基づく医療」

患者が語る「物語」から、医師は病気だけではなく、患者個人の背景や人間関係を理解し、患者の抱える問題を全人的（身体的、精神・心理的、社会的）にアプローチしていこうとする考え方

漢方薬　服薬指導の基礎知識Q&A

・服用について

『漢方の飲ませ方』

①　甘い漢方薬を飲ませてみる

漢方薬に苦手意識がある子どもには甘い漢方薬から飲ませてみる。

比較的飲みやすい漢方薬は、

建中湯類（黄耆建中湯、小建中湯）、

甘麦大棗湯、芍薬甘草湯、麻黄湯、

六君子湯、桔梗湯があります。

『漢方の飲ませ方』

②　味付けをしてみる

1回分の漢方薬を適量のお湯に溶かして溶液を作ります。そして砂糖やココア、ハチミツ、アイスクリーム、ヨーグルトなどに混ぜる。

ただし、ハチミツにはボツリヌス菌が含まれている可能性があるので、乳児には与えないように。

漢方薬の
処方構造とは？

漢方薬の処方構造について

「個々の生薬は単語であり、基本方剤は短文であり、実際の診療は病態に適合する文章を作るようなものだ。」

（山本巌先生の言葉より）

漢方薬の処方構造について

①生薬は“単語”

　→複数の意味を持つ

②生薬の組み合わせは“熟語”

　→組み合わされる単語が変わると効果が変わる

③生薬の並びは“文法”

　→順番が変わると意味が変わる

④いくつかの生薬の組み合わせによりできた漢方薬は“文章”になる

この構造がどのような患者さんの
疾患や症状を治す薬なのかを説明している

漢方薬の処方構造を理解するには！！

例えば、「葛根湯」の処方構造について

添付文書から見た葛根湯

◎効能・効果

自然発汗がなく頭痛、発熱、悪寒、肩こり等を伴う比較的体力のあるものの次の諸症：

感冒、鼻かぜ、熱性疾患の初期、炎症性疾患（結膜炎、角膜炎、中耳炎、扁桃腺炎、乳腺炎、リンパ腺炎）、肩こり、上半身の神経痛、

じんましん

古典（傷寒論）からみた葛根湯

タイヨウビョウ　コウハイ　コワ　キ　キ　アセ
太陽病、項背強バルコト几几、汗ナク、
オフウ　カッコントウ　コレ　ツカサド
悪風スルハ葛根湯之ヲ主ル

〔傷寒論　太陽病中篇 第十八章より〕

風邪のひきはじめである「太陽病」の時期に首筋から肩が凝り痛んで、汗はかかず、寒気がする時には「葛根湯」を用いるのが良い。

「葛根湯」の処方構造

［構成生薬］

葛根湯

- 葛根 ― ①肩こり緩和作用
- 芍薬 ― ②鎮痛（筋肉）作用
- 甘草 ― ②鎮痛（筋肉）作用
- 麻黄 ― ③発汗解熱作用
- 桂皮 ― ③発汗解熱作用
- 生姜 ― ④胃薬
- 大棗 ― ④胃薬

「葛根湯」の処方構造

・「項背強バルコト几几」

→「葛根」の①肩こり緩和作用、
「芍薬」「甘草」の②鎮痛（筋肉）作用

・「汗ナク、悪風スル」

→「麻黄」「桂皮」の③発汗解熱作用

・「生姜」「大棗」

→「葛根」「麻黄」の胃腸障害軽減作用
（④胃薬）

添付文書から見た服薬指導
葛根湯

◎効能・効果

自然発汗がなく頭痛、発熱、悪寒、肩こり等を伴う比較的体力のあるものの次の諸症：

感冒、鼻かぜ、熱性疾患の初期、炎症性疾患（結膜炎、角膜炎、中耳炎、扁桃腺炎、乳腺炎、リンパ腺炎）、肩こり、上半身の神経痛、

じんましん

生薬の組み合わせによる効能の変化

・麻黄＋桂皮：発汗作用

強い発汗作用によって感冒を治す

（麻黄湯、葛根湯）

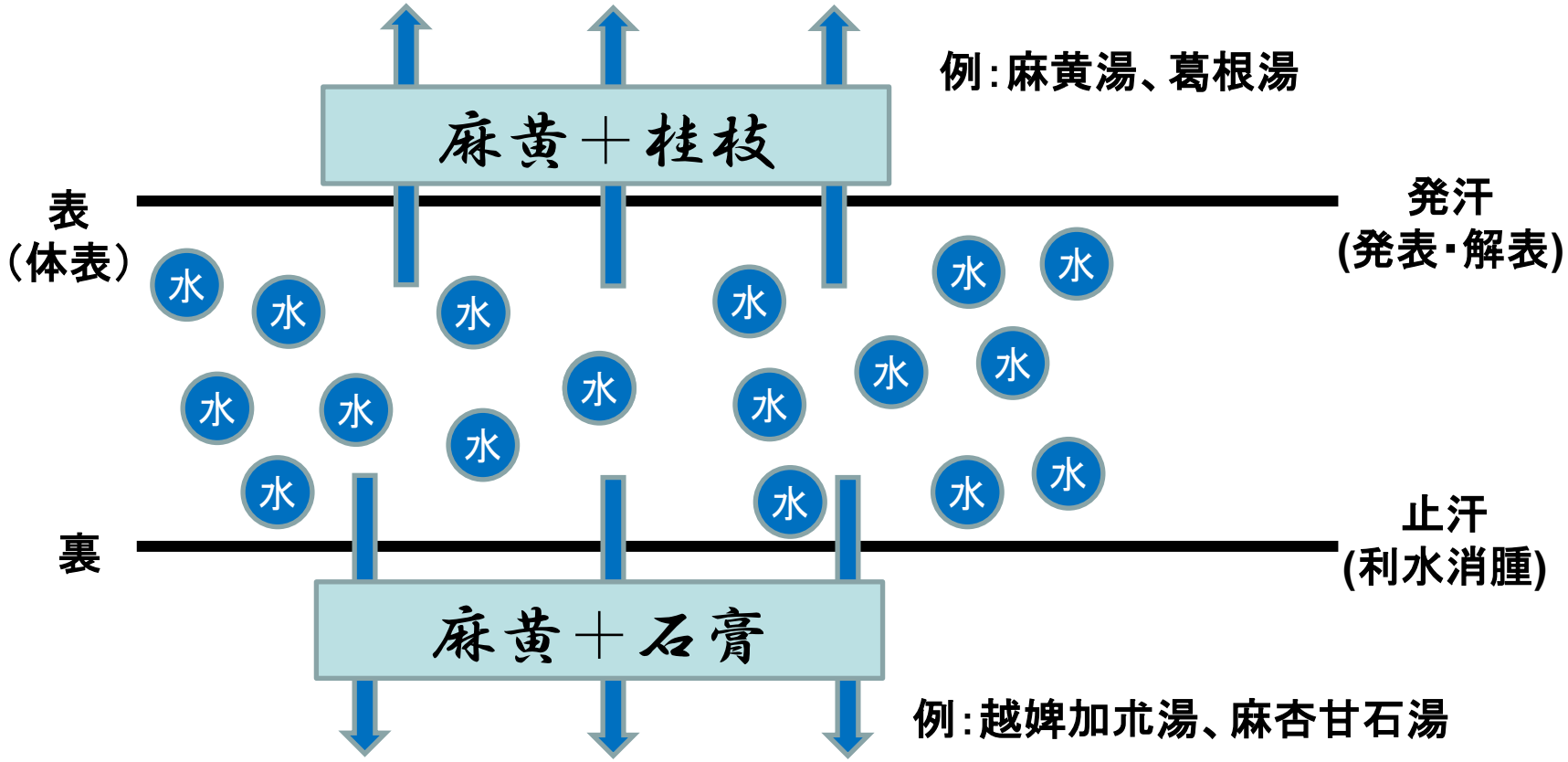
・麻黄＋石膏：止汗作用（利水消腫）

①熱性疾患による高熱、熱感、口渇、煩躁、肺の炎症による咳嗽、呼吸促迫、喘咳を治す

（麻杏甘石湯）

②筋肉関節の消炎鎮痛をはかる（越婢加朮湯）

麻黄・桂枝と麻黄・石膏の働きの違い



漢方の処方構造をより
よく理解するために！

基本病態に対する基本10方剤と構成生薬をマスターする

①最初に気・血・水・寒・熱などの病態に対する基本方剤とその構成生薬を覚える

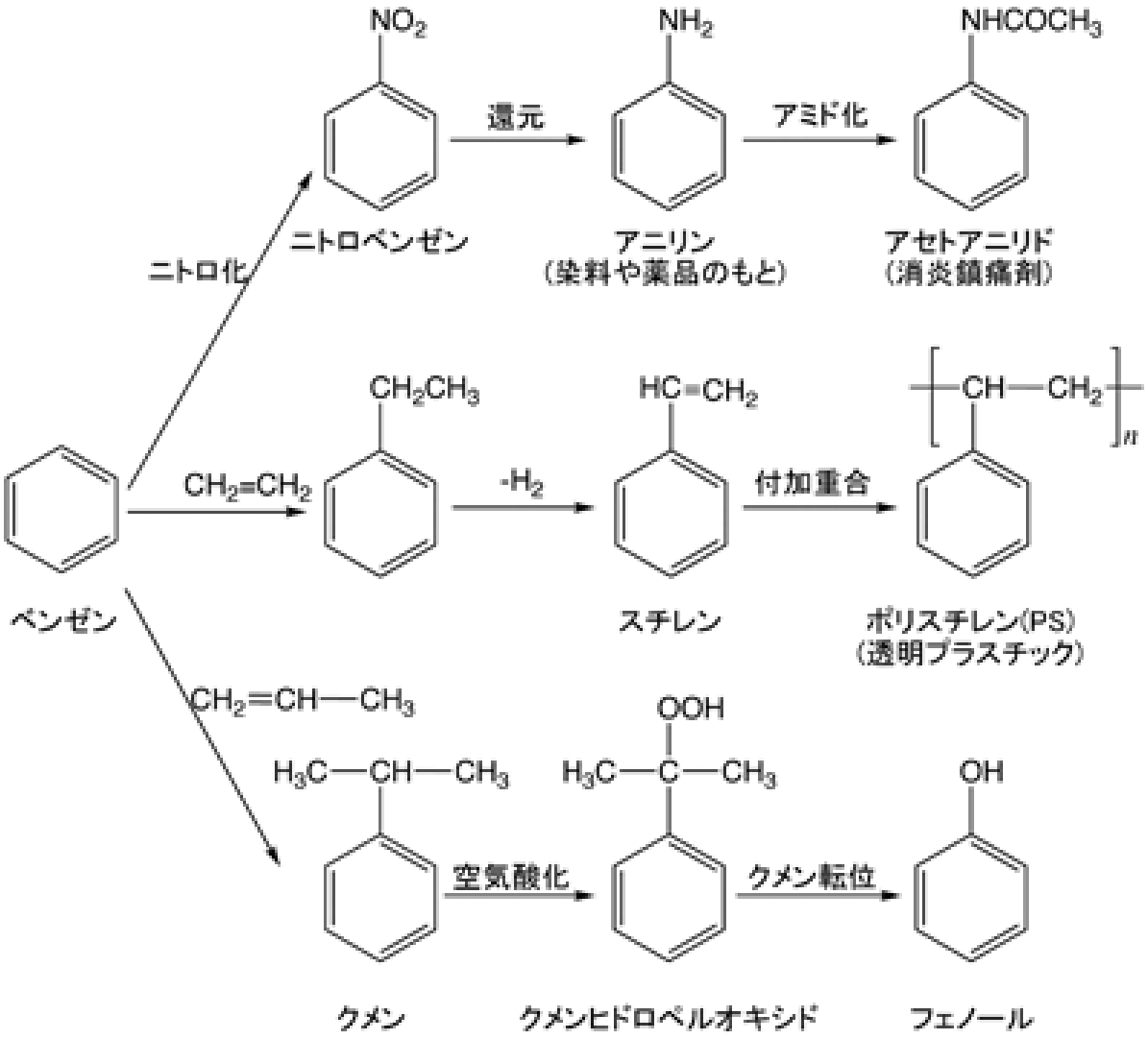
②それぞれの基本方剤の構成生薬と薬能を理解すればその適応病態を理解することにもなる

③この手順により構成生薬や基本方剤から展開される数々の方剤の理解が容易になる

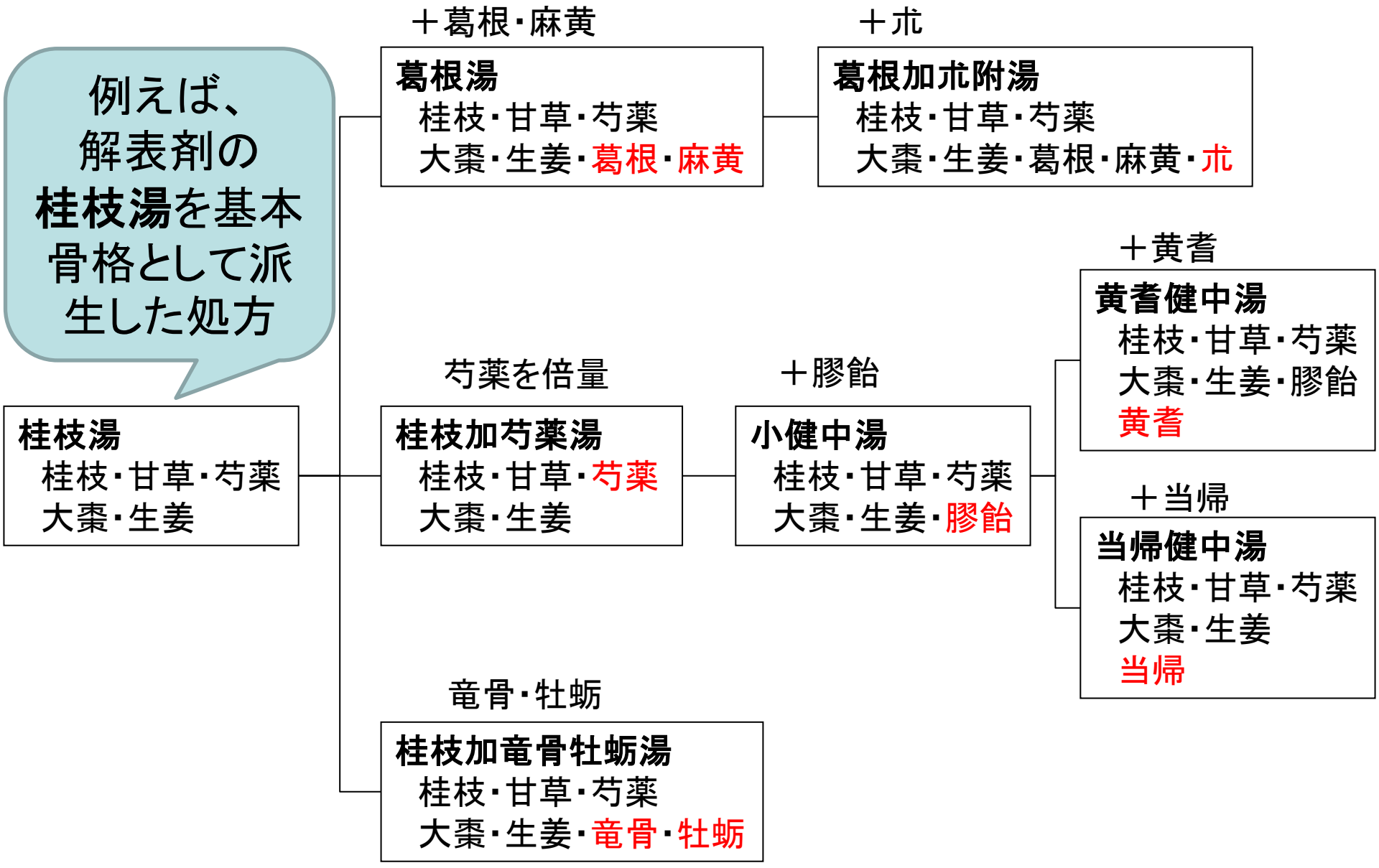
基本病態に対する10方剤と構成生薬

基本病態	基本方剤	構成生薬
気虚	四君子湯	人参、茯苓、白朮、甘草
気逆	苓桂朮甘湯	茯苓、桂枝、白朮、甘草
気鬱(気滞)	半夏厚朴湯	半夏、厚朴、生姜、茯苓、蘇葉
血虚	四物湯	地黄、当帰、芍薬、川芎
瘀血	桂枝茯苓丸	桂枝、茯苓、牡丹皮、桃仁、芍薬
水湿(水毒)	四苓散(五苓散)	白朮、茯苓、沢瀉、猪苓
裏寒	人参湯	人参、乾姜、甘草、白朮
実熱	黄連解毒湯	黄連、黄芩、黄柏、山梔子
表虚(解表)	桂枝湯	桂枝、芍薬、甘草、大棗、生姜
肝気鬱血(和解)	小柴胡湯	半夏、人参、甘草、生姜、大棗、柴胡、黄芩

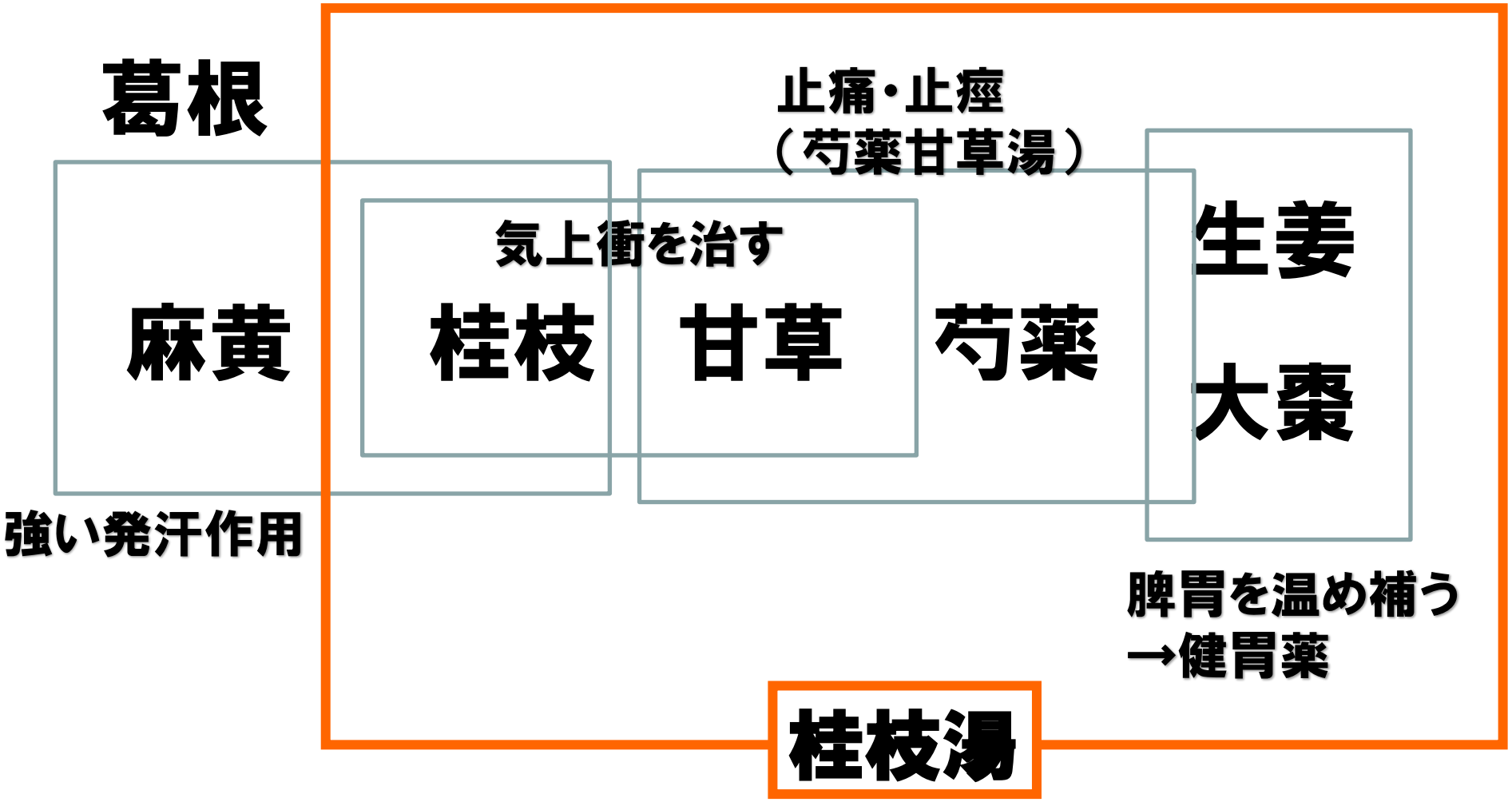
漢方の構成生薬は骨格で覚える！



漢方の構成生薬は骨格で覚える！



葛根湯の構成生薬



漢方の構成生薬は骨格で覚える！

その他、
気血水の基本処方を組み合わせた処方

四物湯
当帰・川芎・芍薬・地黄

＋

黄連解毒湯
黄連・黄芩・黄柏・山梔子

＝

温清飲
当帰・川芎・芍薬・地黄
黄連・黄芩・黄柏・山梔子

補血の基本処方

清熱の基本処方

五苓散
桂枝・茯苓・朮・猪苓・沢瀉

利水の基本処方

柴苓湯
桂枝・茯苓・朮・猪苓・沢瀉
半夏・人参・甘草
生姜・大棗・柴胡・黄芩

小柴胡湯
半夏・人参・甘草
生姜・大棗・柴胡・黄芩

小半夏加茯苓湯
半夏・生姜・茯苓

＋厚朴・蘇葉

半夏厚朴湯
半夏・生姜・茯苓
厚朴・蘇葉

理気の基本処方

柴朴湯
半夏・人参・甘草
生姜・大棗・柴胡・黄芩
茯苓・厚朴・蘇葉

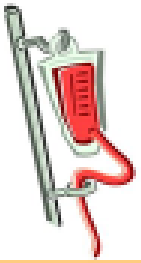
漢方の基礎理論：気血水

～気について～

気血水の定義

気

体内を流れる目に見えないエネルギーで、人間が生命活動を営むための生理機能であり、生命の根源。



血

気の作用により血脈中を絶えず循環している赤い有形の物質。

水

気の作用により生体を滋潤し、栄養する無色の液体の総称

気血水の定義（もう少し簡単に言うと）

気

生体が正常に機能するためのエネルギー

血

血液とその流れや働き

水

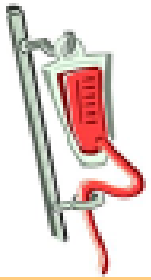
体内の血液以外の水分

気血水を物質と機能に分けると

気

機能

「働き」を司る



血

物質

「モノ」を司る

水

これら３つが適切な量でうまく巡っていることが大切です！

人体の構成成分

気（機能）

血・水（物質）

気

生体のエネルギー

機能面を司る

三者のバランスで健康維持

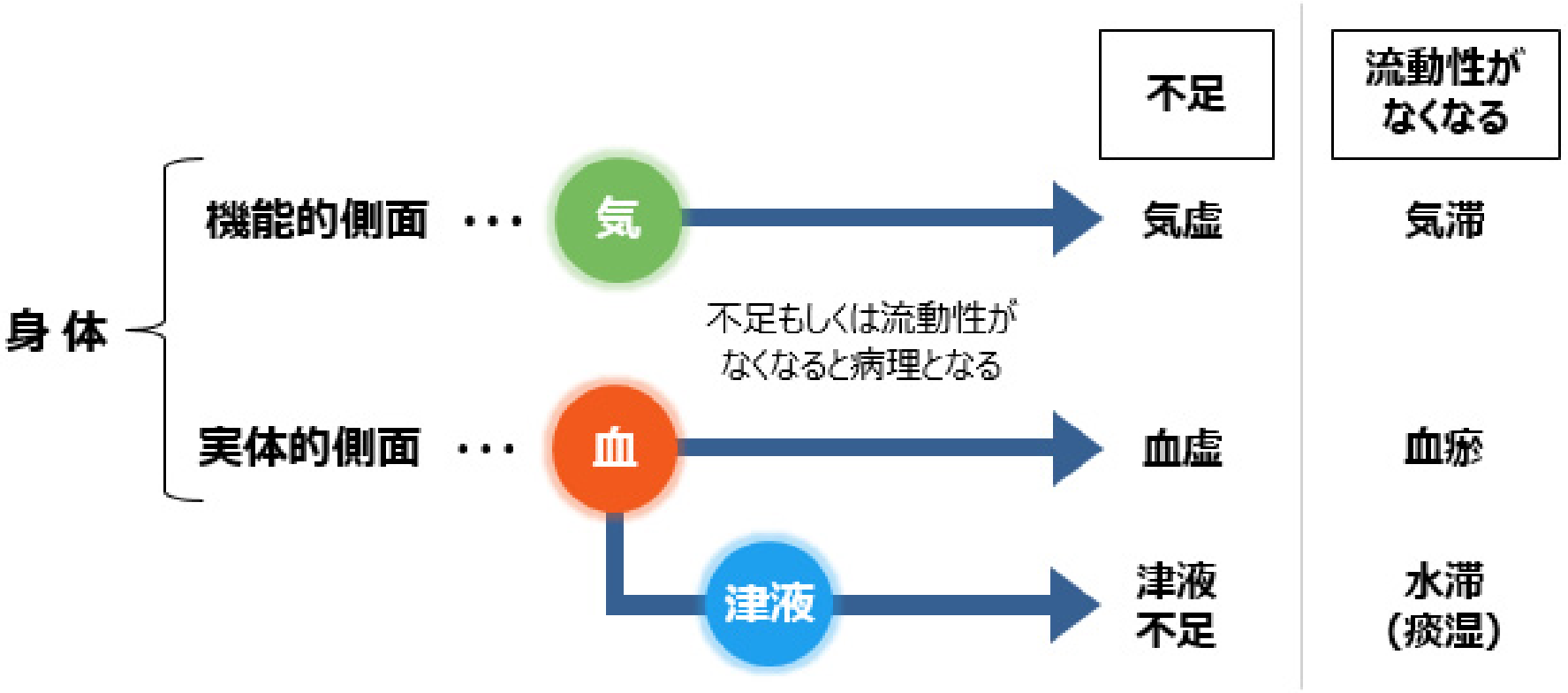
血

血液･栄養物質とその働きを含めた概念

水〔津液〕

細胞内外液，関節腔液
唾液，消化液，汗，涙，
尿などの生理的な水分

気血水の異常


不足
流動性がなくなる
身体
機能的側面 ・・・
気
気虚
気滞
不足もしくは流動性がなくなると病理となる
実体的側面 ・・・
血
血虚
血瘀
津液
津液不足
水滞(痰湿)

気とは？

先天の気 生まれ持った体質

後天の気 食べ物から得たエネルギー

→ **元気**

先天の気と後天の気

先天の気

誕生の時に両親から与えられる気。
「腎」に保有。成人頃まで増え、その後減っていく。

後天の気

誕生後に、呼吸（宗気・肺から取り入れ）及び飲食物（水穀の気・脾から取り入れ）の摂取により取り入れられる気。

腎気(腎精)の男女差について

	7歳	14歳	21歳	28歳	35歳	42歳	49歳
年齢							
腎気	活発になる	成熟する	隅々まで行き渡る		衰え始める		
身体の変化	永久歯が生え髪が伸びる	月経が開始子を孕む能力が備わる		髪が豊かで体は最も強壮	顔がやつれ始める	顔にシワがより、白髪が目立ち始める	月経が止まる子を産めなくなる

	8歳	16歳	24歳	32歳	40歳	48歳	56歳	64歳
年齢								
腎気	活発になる	成熟する	隅々まで行き渡る		衰え始める	陽気が衰える	肝気が減る	
身体の変化	永久歯が生え髪が伸びる	生殖能力が備わる		筋骨が逞しく肌肉が豊かになる	髪の毛が抜け歯が揺れる	顔にシワがより、髪が白くなる	筋肉が衰え、生殖能力弱まり、体が老化	歯も髪の毛も抜け去る

気の性質や作用

温煦作用

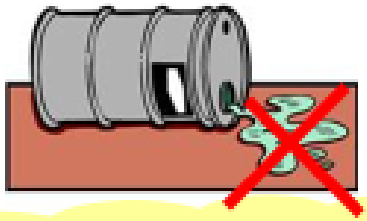
体を温める

推動作用

血や水（体内の物質）
を動かす原動力

防御作用

外部の病邪から
体を守る

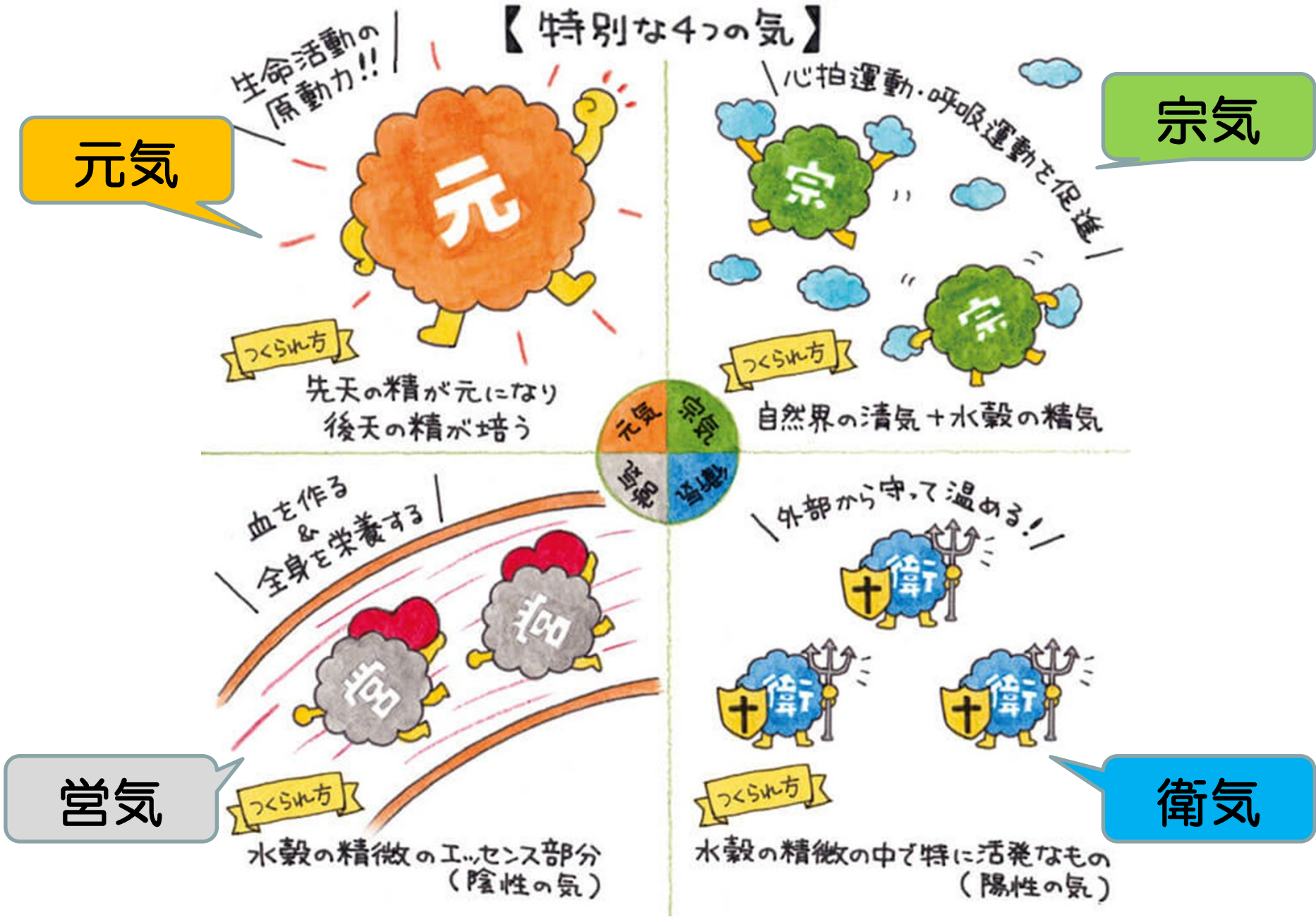


固摂作用

体に必要なものが
外に漏れるのを防ぐ

主に体表を覆っている気の働き

気の種類


【特別な4つの気】
元気
生命活動の原動力!!
元
つくられ方
先天の精が元になり
後天の精が培う
宗気
心拍運動・呼吸運動を促進
宗
宗
つくられ方
自然界の清気＋水穀の精気
営気
血を作る
&
全身を栄養する
血
血
つくられ方
水穀の精微のエッセンス部分
（陰性の気）
衛気
外部から守って温める!
衛
衛
衛
つくられ方
水穀の精微の中で特に活発なもの
（陽性の気）

気血水の「気」の役割

血・水はそれ単体では動くことができないため「気」がその原動力となって、体の隅々に運びます。

「気」の異常

気の異常

・気虚：気の量が不足した状態。

→気力がない、疲れやすい、食欲不振、
　身体がだるい

・気逆：反対に上半身から下半身にいくはずの気が逆流してしまった状態です

→のぼせ、発作性頭痛、動悸

・気鬱：気の流れが停滞して、詰まった状態。どよんとした状態。

→抑うつ傾向、無気力、喉の痞え感、胸苦しい

気の異常に用いる生薬

・気虚：気の産生促進、供給。
→人参、黄耆、白朮

・気逆：気のながれを戻す。
→桂枝、黄連など

・気鬱：気を巡らす。
→厚朴、紫蘇葉、柴胡

気虚

生体のエネルギーである気が不足している状態。

エネルギー不足なので、

・疲れやすい　・体がだるい　・気力がない　・目に力がない

などの症状が現れます。

また体表の気（衛気）が不足し、防衛機能が落ち、かつ外に必要なものが漏れやすい状態にもなるので

・感染にかかりやすい　・汗をかきやすい　・夜尿症

などにもつながります。

気は疲労すると消耗してしまうので

・疲労により出現、増悪する様々な症状

も気虚の重要な所見となります。

多くの場合、**ベースに胃腸虚弱（食べ物から「気」を十分に摂り込めない）があります。**

気虚に効果のある生薬

人参

黄耆

白朮

基本病態に対する10方剤と構成生薬

基本病態	基本方剤	構成生薬
気虚	四君子湯	人参、白朮、茯苓、甘草
気逆	苓桂朮甘湯	茯苓、桂枝、白朮、甘草
気鬱(気滞)	半夏厚朴湯	半夏、厚朴、生姜、茯苓、蘇葉
血虚	四物湯	地黄、当帰、芍薬、川芎
瘀血	桂枝茯苓丸	桂枝、茯苓、牡丹皮、桃仁、芍薬
水湿(水毒)	四苓散(五苓散)	白朮、茯苓、沢瀉、猪苓
裏寒	人参湯	人参、乾姜、甘草、白朮
実熱	黄連解毒湯	黄連、黄芩、黄柏、山梔子
表虚(解表)	桂枝湯	桂枝、芍薬、甘草、大棗、生姜
肝気鬱血(和解)	小柴胡湯	半夏、人参、甘草、生姜、大棗、柴胡、黄芩

「補気」(気を補う)の代表的な生薬

ストレス、感染、日頃の無理

回復させ、いち早く正常化させる

正常化

人参

胃液分泌の正常化
胃壁の血流促進
潰瘍の治療効果
蠕動運動を促がす

「補気」(気を補う)の代表的な生薬

オウギ
黄耆

虚弱体質
非健康的な汗
皮膚が弱い
感染しやすい

自汗(虚弱な方が、暑くもないのに汗をかく)

自汗と一緒に気が漏れる

皮膚(表)を強くして、自汗を止め
気を保持して元気にする(固表止汗)

清い気を上に持ち上げる(補気昇陽)
利水し浮腫を改善する(利水消腫)
排膿促進(托毒排膿)

人参と黄耆の働き

人参の働き	補気作用	体力の低下・衰弱・疲労を回復する。
	健脾作用	胃腸の機能を回復し心下の痞えを取り除く。
	安神作用	神経衰弱による精神の疲労を回復し、意志を強くする。
	止渇作用	体液の消耗による口渇を止める。
黄耆の働き	強壮作用	慢性の疲労・衰弱・内臓下垂・神経麻痺を治す。
	利水作用	体表の水を取り除く。
	止汗作用	表虚による多汗・盗汗を治す。
	排膿作用	排膿を促進し、肉芽形成を促進する。

補剤の分類

分類	重要な目標	主な処方
人参剤	「胃腸虚弱」	四君子湯 六君子湯 人参湯
参耆剤 (人参と黄耆)	「身体が疲れる」	補中益気湯 清暑益気湯 十全大補湯 人参養栄湯

構成生薬からみると、補剤の多くは人参単独または人参と黄耆を含む

「気虚」に用いる代表的な処方

- 四君子湯
- 六君子湯
- 補中益気湯

「気の不足」(気虚)に使用する代表的処方

四君子湯（和剤局方） 12世紀

気を補い胃腸機能の改善（補気）

人参（ニンジン）
甘草（カンゾウ）
白朮（ビャクジュツ）
茯苓（ブクリョウ）
大棗（タイソウ）
生姜（ショウキョウ）

※ツムラは蒼朮、コタロー、クラシエは白朮

六君子湯（万病回春） 16世紀

胃腸の働きをより良くする（理気・制吐）

陳皮（チンピ）
半夏（ハンゲ）

四君子湯は元気にさせ、食べられるようになる「補気剤」の基本処方。
六君子湯は四君子湯に気をめぐらせる生薬を加え、胃腸の動きををより良くして膨満感や悪心・嘔吐を改善する。

六君子湯の構成生薬

胃腸虚弱
消化器症状

人参（ニンジン）
蒼朮（ソウジュツ）
大棗（タイソウ）
茯苓（ブクリョウ）
甘草（カンゾウ）
生姜（ショウキョウ）
半夏（ハンゲ）
陳皮（チンピ）

胃内停水、痰飲

四君子湯
〔効能又は効果〕
やせて顔色が悪くて、食欲がなく、つかれやすいものの次の諸症：
胃腸虚弱、慢性胃炎、胃のもたれ、嘔吐、下痢

二陳湯
〔効能又は効果〕
悪心、嘔吐

六君子湯　処方解説

- この処方は四君子湯に半夏、陳皮を加味したもの。

- 上部消化管の湿気を去り悪心や嘔吐を止める半夏と、理気薬として胃腸機能を調え胃内停水や湿を除く陳皮が加わることで、四君子湯の適応で心下部の水滞や食滞（胃腸で食物が停滞）により胃腸機能が影響を受けているものに奏効する。

六君子湯　処方解説

- 陳皮の理気作用は人参、生姜と組み合わさることで脾胃を補い、食欲不振、腹部膨満感、腹痛、下痢などを治す。

- したがって、高温多湿の気候のため、脾に湿が停滞し、水滞を生じやすく、脾胃の虚弱な人が比較的多い日本人の体質にきわめて適合した処方である。

添付文書から見た六君子湯

◎効能・効果

胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症：

胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐

古典（万病回春）からみた六君子湯

（原文）

「脾胃虚弱、飲食思うこと少なく、あるいは久しく瘧痢を患い、若しくは内熱を覚え、あるいは飲食化し難く、酸を作し、虚火に属するを治す。須らく炮姜を加えてその効甚だすみやかなり。」

古典（万病回春）からみた六君子湯

（現代語訳）
「消化機能が弱っていて食欲がなく、時には長く下痢をしたり、内熱を感じたり、食べ物を消化吸収できなかったり、呑酸症状が出たりして、虚火（労損に伴う熱）に属するものを治療する。さらに寒（冷え）が強ければ、乾姜を入れる。」

添付文書から見た六君子湯

◎効能・効果

胃腸の弱いもので、**食欲がなく**、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症：

胃炎、胃アトニー、胃下垂、**消化不良**、**食欲不振**、胃痛、嘔吐

胃下垂:胃のバリウム検査で確認して、胃が骨盤よりも下がっている状態。
胃アトニー:胃下垂が原因で胃の筋肉がたるみ、胃の動きが悪くなることです。

「六君子湯」の処方構造

六君子湯

四君子湯

- 人参
- 甘草

→ 消化吸収亢進作用

- 蒼朮
- 茯苓

→ 水分代謝改善作用

- 生姜
- 大棗

→ 健胃薬
（胃粘膜保護作用）

- 半夏
- 陳皮

→ 蠕動運動促進作用

六君子湯　メーカーによる違い

- ツムラは蒼朮(燥湿)
- クラシエ、オースギ、コタローは白朮(補脾燥湿)

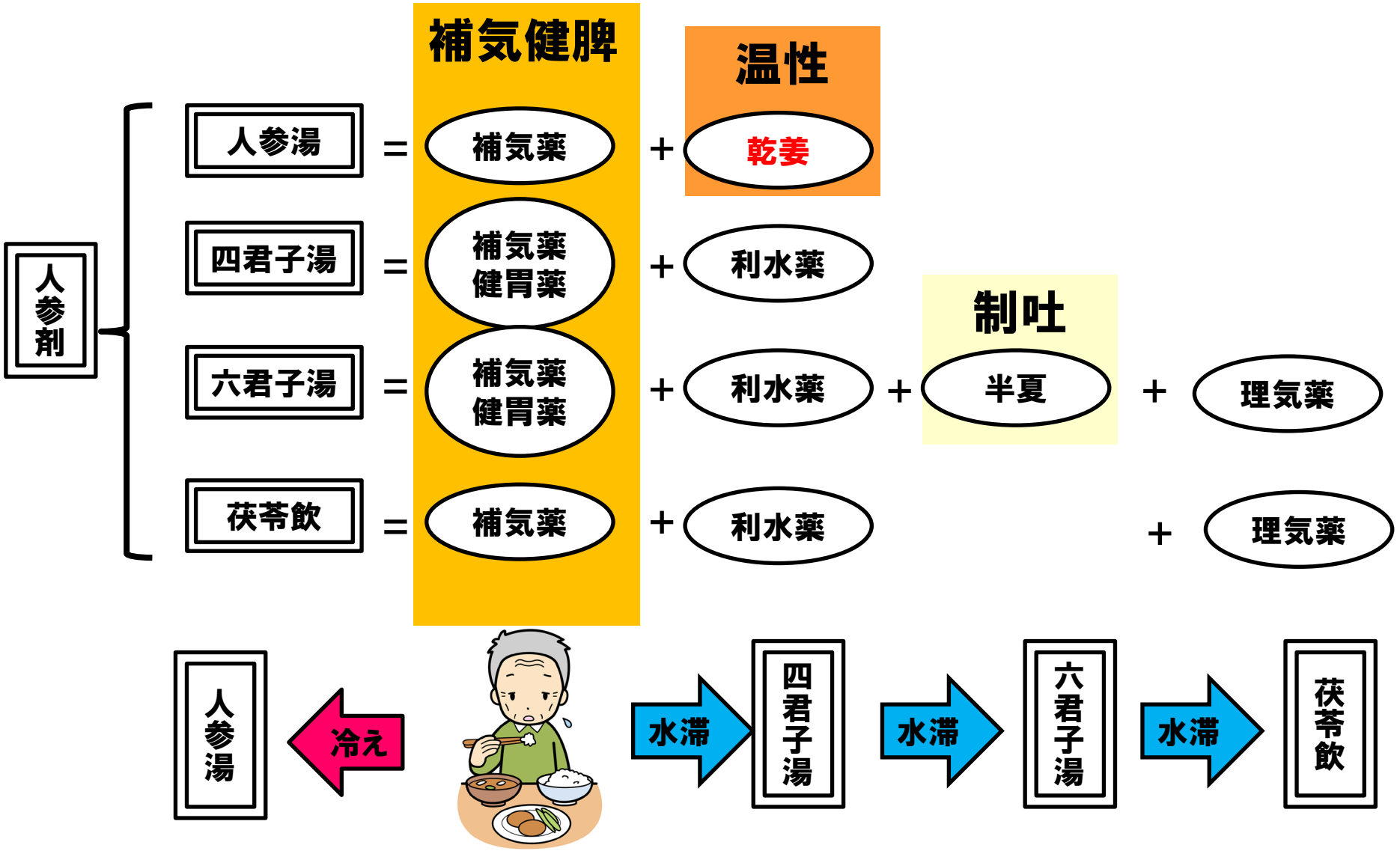
- 機能性ディスペプシアに対して、白朮六君子湯は、蒼朮六君子湯に比して有意に上腹部の諸症状を改善する。

機能性ディスペプシアFunctionalDyspepsia(FD)
「6カ月以上前から症状があり、最近3カ月間はつらいと感じる**食後のもたれ感**、**早期飽満感**、**心窩部痛**及び**心窩部灼熱感**のうち、1つ以上の症状があり、かつその原因となりそうな**器質的疾患が確認されていない**場合」

代表的な人参剤の構成生薬

	人参（補気）	甘草（補気）	白朮（補気）	生姜（健胃）	大棗（健胃）	茯苓（利水）	半夏（制吐）	陳皮（理気）	枳実（理気）	乾姜（温性）
人参湯	○	○	○							○
四君子湯	○	○	○	○	○	○				
六君子湯	○	○	○	○	○	○	○	○		
茯苓飲	○		○	○		○		○	○	

代表的な人参剤の使い分け



人参と甘草

・人参と甘草は共に体をよく潤す作用があるため、人参湯では、浮腫を起こすことがあるが、四君子湯は利水の白朮、茯苓を配合しており浮腫を起こしにくい。

人参湯	人参、甘草、白朮、乾姜
四君子湯	人参、甘草、白朮、茯苓

補中益気湯の構成生薬

疲労倦怠感が中心
食欲不振、微熱、盗汗など

補中益気湯

四君子湯

柴胡　升麻

※昇提作用

蒼朮

参耆剤

大棗　人参　黄耆　当帰

陳皮　甘草　生姜

茯苓

※昇提作用：
下焦（主に臍から下の臓器）の気が虚し、脱肛、子宮下垂など脱力した病態を、気を巡らすことにより治す作用。

六君子湯が適すると考えられる状態

- 腹部膨満感、特に**食事早期**に**腹部膨満感**を訴える場合
- 食欲不振→全身状態の悪化が懸念される場合
- 普段から顔色が悪く、食欲がない、そして疲れやすい場合

食欲不振＞倦怠感　・・・　**六君子湯**
食欲不振＜倦怠感　・・・　補中益気湯

六君子湯　関連処方まとめ

- 人参湯：冷えが強く、水滞症状が弱い
- 四君子湯：気虚は強いが、水滞（悪心、嘔吐）は少ない。
- 茯苓飲：気鬱があり、吐き気や胸やけなどをともなう胃炎の症状
- 補中益気湯：疲労倦怠感が著明なもの

例)「六君子湯」のSOAP薬歴

S:患者の主症状(患者が訴える自覚症状)

・食欲がない、胃が痛い、吐き気がする(吐く)
お腹が張る

O:客観的情報

(患者が訴える症状以外で確認できる症状)

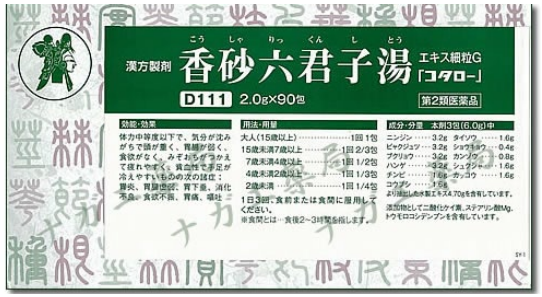
・内視鏡検査で器質的な異常の有無

・腹診で「胃内停水」(心窩部の振水音)の有無

・疲れやすさ、手足の冷えの有無

六君子湯　臨床応用

- 六君子湯に香附子、縮砂、藿香
  ＝香砂六君子湯(OTC医薬品)

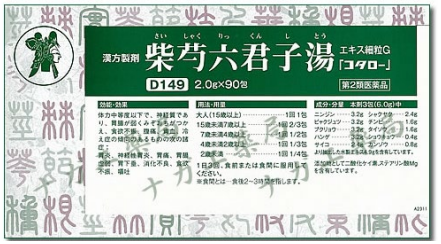


六君子湯証で神経質な性格
気分が憂鬱で不安傾向なもの

医療用で代用:香蘇散＋六君子湯

六君子湯　臨床応用

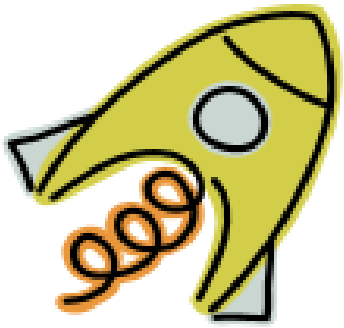
- 六君子湯に柴胡、芍薬
  ＝柴芍六君子湯（OTC医薬品）



六君子湯証で神経症傾向が強く
不安感、抑うつ傾向

医療用で代用：四逆散＋六君子湯

気逆（上衝）



気の流れが本来と反対の方向に進んでしまう病態です。

具体的には、「鼻⇒肺」や「口⇒食道⇒胃⇒腸」のように
下へ流れるのが正常です。

これが逆行して上に昇ってしまうのが気逆（上衝）です。
気が上に昇るので

- のぼせ
- 顔面紅潮
- 頭痛
- 動悸
- 上に突き上げてくる感覚
- 激しい咳嗽

などが現れます。同時に、下の方には気が巡らず不足するため、

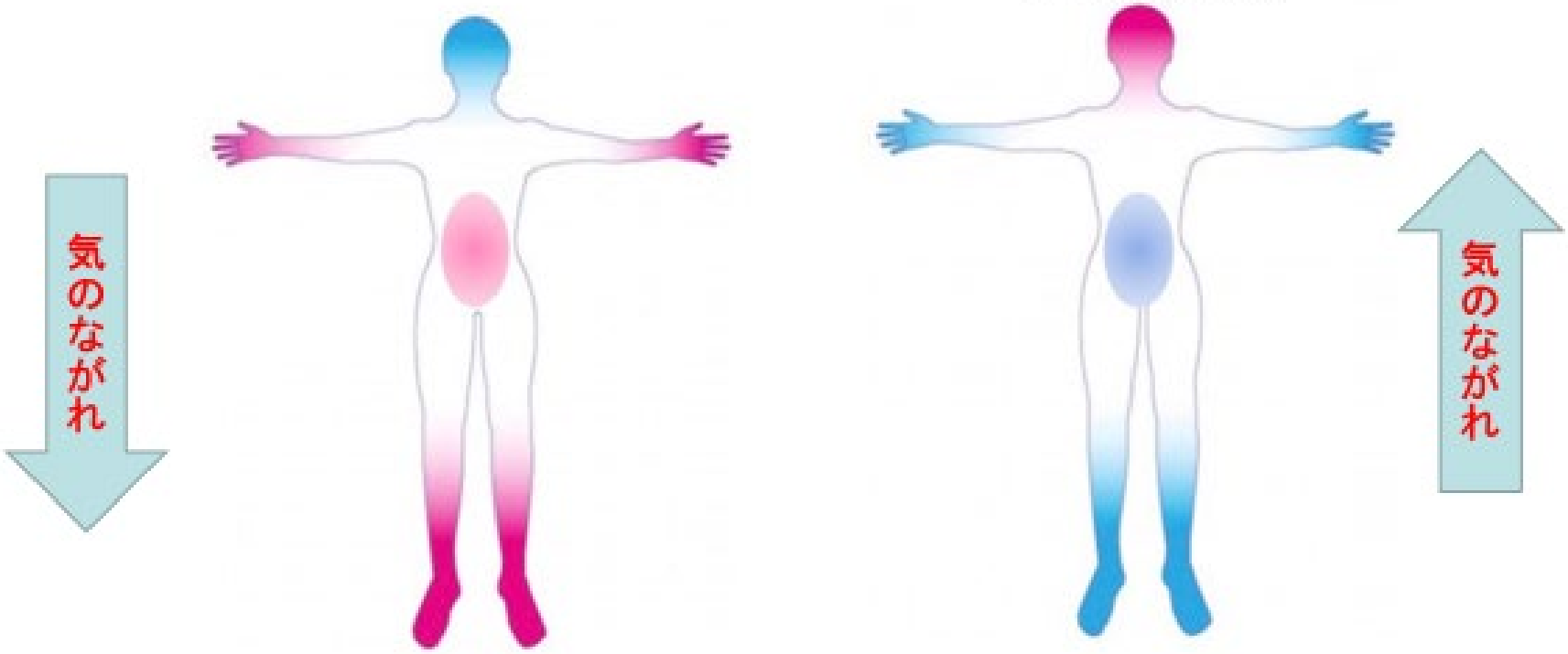
- 上半身はのぼせるのに、下半身は冷える（冷えのぼせ）

という特徴的なのぼせ症状となります。

また、これらの症状が**しばしば発作的に起こる**というのも気逆の特徴です。

気の上衝とは

気上衝の状態



頭寒足熱

理想的なバランス

頭熱足寒

バランスが崩れている

気逆に効果のある生薬

桂皮

黄連

基本病態に対する10方剤と構成生薬

基本病態	基本方剤	構成生薬
気虚	四君子湯	人参、茯苓、白朮、甘草
気逆	苓桂朮甘湯	茯苓、桂枝、白朮、甘草
気鬱(気滞)	半夏厚朴湯	半夏、厚朴、生姜、茯苓、蘇葉
血虚	四物湯	地黄、当帰、芍薬、川芎
瘀血	桂枝茯苓丸	桂枝、茯苓、牡丹皮、桃仁、芍薬
水湿(水毒)	四苓散(五苓散)	白朮、茯苓、沢瀉、猪苓
裏寒	人参湯	人参、乾姜、甘草、白朮
実熱	黄連解毒湯	黄連、黄芩、黄柏、山梔子
表虚(解表)	桂枝湯	桂枝、芍薬、甘草、大棗、生姜
肝気鬱血(和解)	小柴胡湯	半夏、人参、甘草、生姜、大棗、柴胡、黄芩

「気逆」に用いる代表的な処方

- **桂枝**を含む処方：
  桂枝湯類
  苓桂朮甘湯
- **黄連**を含む処方：
  黄連解毒湯

苓桂朮甘湯の構成生薬

気の上衝によって生ずるめまい・頭痛・不安感を治す

心悸亢進や気の上衝の抑制

過剰の水分を血中に吸収し利尿

気逆を整える

ジュツ
朮
水の分布調整
(利水)

ブクリョウ
茯苓
水の分布調整
(利水)

ケイヒ
桂皮
気をめぐらせ
温める

カンゾウ
甘草
調和・緩和

苓桂朮甘湯　処方解説

- 茯苓、白朮→利水作用とともに脾胃を補い胃腸の機能を高める。

- 桂枝、茯苓→気の上衝による動揺症状（めまい、頭痛、動悸、不安感）を緩解し、水の流れを助ける。

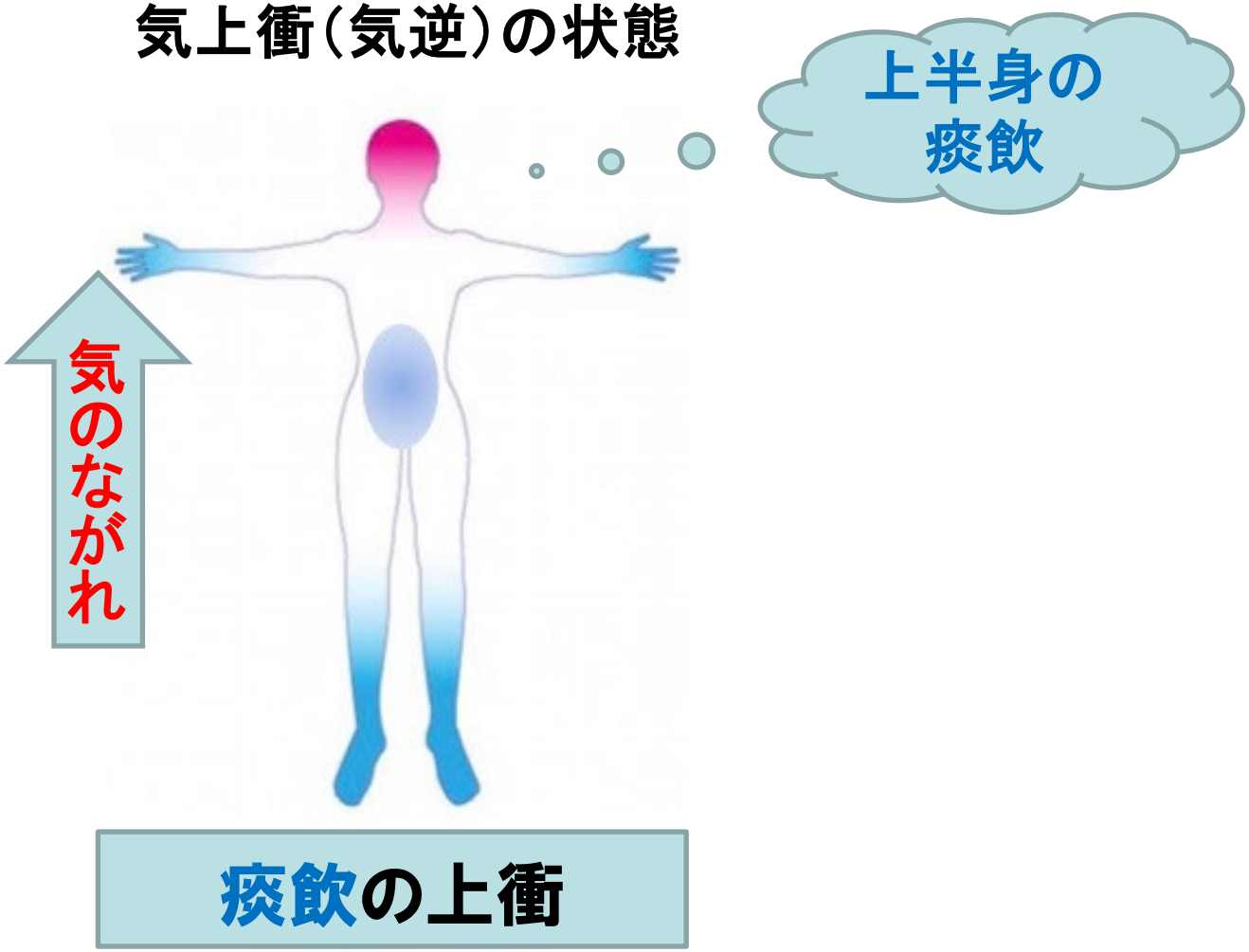
苓桂朮甘湯　処方解説

- めまい、立ちくらみ、心悸亢進、息切れなどは、心下部の水滞が気の上衝や偏在によって起こる症状と考えられている。

- 一般に上半身の症状で胃内停水があり、めまい、立ちくらみ、動悸などをともなう症候に適応する。

気の上衝（気逆）と痰飲

気上衝（気逆）の状態



添付文書から見た苓桂朮甘湯

◎効能・効果

めまい、ふらつきがあり、または動悸があり尿量が減少するものの次の諸症：

神経質、ノイローゼ、めまい、動悸、息切れ、頭痛

古典（傷寒論）からみた苓桂朮甘湯

（原文）

「傷寒、若しくは吐し、若しくは下したのち、心下逆満(しんかぎゃくまん)し、気、胸に上衝し、起てば即ち頭眩(ずげん)し、脈沈緊、身(み)振振として動揺する者は茯苓桂枝白朮甘草湯(つまり、苓桂朮甘湯)之を主る。。」

古典（傷寒論）からみた苓桂朮甘湯

（現代語訳）

「傷寒で、吐いたり、下したりして、胸部が張っている、気が上って胸を衝き、起き上がろうとするとめまいが起こり、脈は沈緊である。このような状態の時に発汗させると、ふらふらとしてめまいが起こる。このような時は、苓桂朮甘湯の主治である。」

古典（金匱要略）からみた苓桂朮甘湯

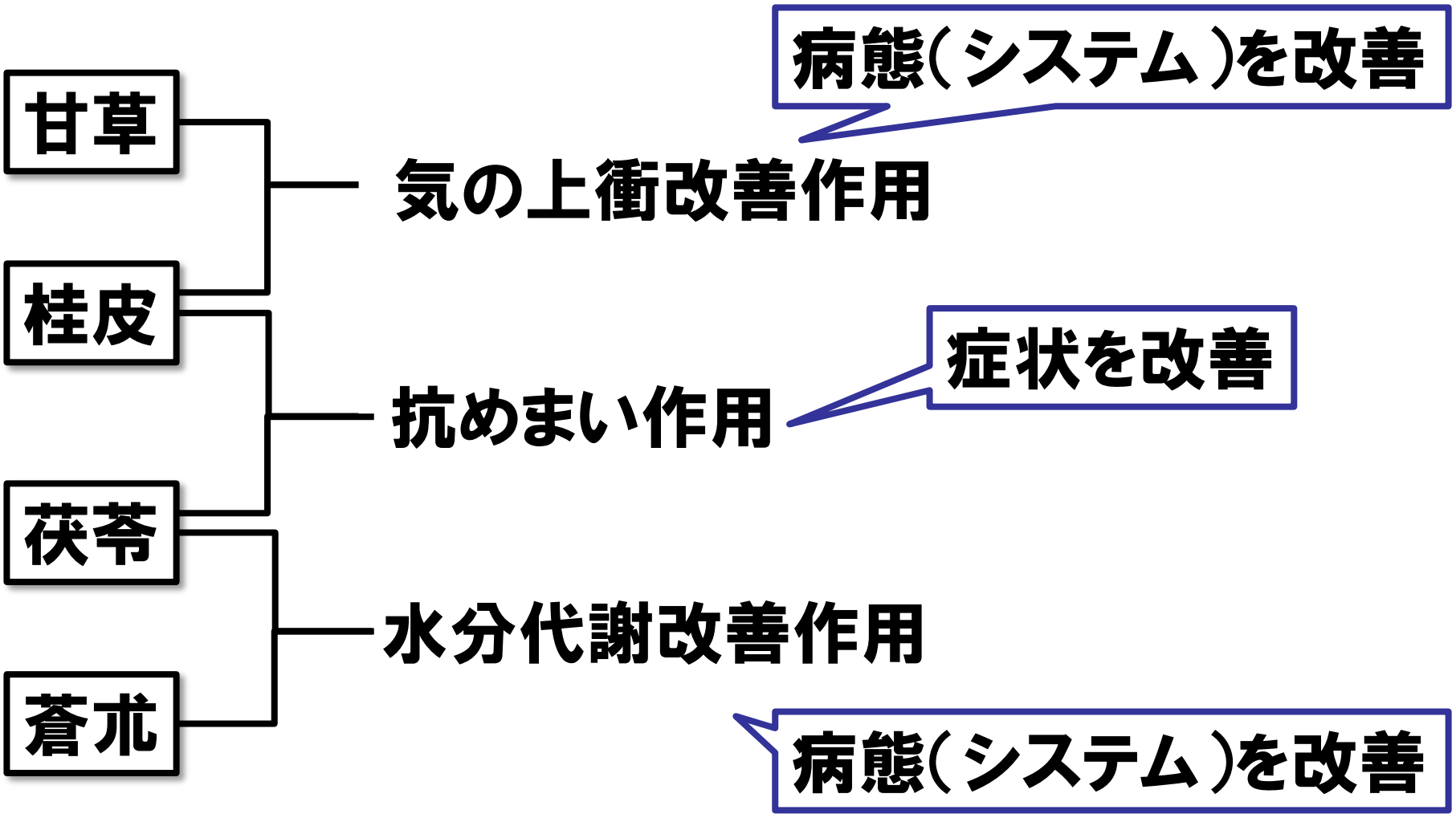
（原文）

「心下に痰飲あり、胸脇支満、目眩す、苓桂朮甘湯之を主る。」

（現代語訳）

「心窩部に痰飲があり、胸脇部が膨満し、めまいがするのは、苓桂朮甘湯の主治である。」

「苓桂朮甘湯」の処方構造


病態（システム）を改善
甘草
桂皮
気の上衝改善作用
症状を改善
抗めまい作用
茯苓
水分代謝改善作用
蒼朮
病態（システム）を改善

添付文書から見た苓桂朮甘湯

◎効能・効果

めまい、ふらつきがあり、または動悸があり尿量が減少するものの次の諸症：

水分代謝改善作用
（茯苓、朮）

神経質、ノイローゼ、めまい、動悸、息切れ、頭痛

抗めまい作用
（桂枝、茯苓）

気の上衝改善作用
（桂枝、甘草）

例)「苓桂朮甘湯」のSOAP薬歴

S:患者の主症状(患者が訴える自覚症状)

・めまいがする、立ち眩みがする、フラフラする

O:客観的情報

(患者が訴える症状以外で確認できる症状)

・息切れ、動悸(心悸亢進)、頭痛、のぼせ

・尿量の減少はないか?

・腹診で「胃内停水」(心窩部の振水音)の有無

苓桂朮甘湯

フクロウ体質のお話

- 朝早く起きるのがきつい
- 夜は眠れない
- 冷え症で足が冷たく冬は寒がり
- 夕方から夜にかけて元気
- 疲れやすい
- 朝礼で倒れやすい
- 乗り物に酔いやすい

黄連解毒湯

ヒバリ体質のお話

- 朝早く起きる
- 寝つきはよくてどんな所でもすぐ横になれる
- 何を食べてもおいしい
- 中年以降は血圧が高め

苓桂朮甘湯　関連処方まとめ

- 苓桂朮甘湯：めまい、立ちくらみを主症状とする。

立ちくらみのめまい

- 五苓散：口渇、嘔吐、浮腫、下痢などの症状をともなう。

陰天時に悪化する頭痛、めまい

- 真武湯：冷えがあり、生気に乏しい疲労感が強いめまい。

フワフワと雲の上を歩いているようなめまい

- 半夏白朮天麻湯：気虚の症状があり、頭痛、めまい、嘔吐の3つの症状を主訴とする。

回転性のめまい

苓桂朮甘湯　臨床応用

- 心悸亢進がひどく、突然に突き上げるような動悸のある（奔豚：ほんとん）時には、白朮の代わりに大棗を配合した苓桂甘棗湯（OTC医薬品）が用いられる。

※苓桂甘棗湯（医療用で代用）

→苓桂朮甘湯＋甘麦大棗湯

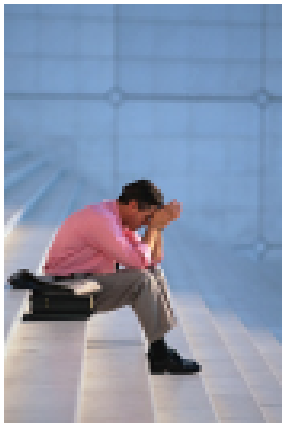
苓桂朮甘湯　臨床応用

- 女性の月経や更年期と関係がある場合や貧血がみられる場合は、四物湯を合わせた連珠飲(OTC医薬品)が適応する

※連珠飲(医療用で代用)

→苓桂朮甘湯＋四物湯

気滞（気鬱）



気は本来体中を順調に「巡って」いなければなりません。

しかし、その巡りに滞りが生じると、「気滞」となります。

気滞の場所では局所的に気が過剰にある状態になるので

- 張ったような苦しさ
- つかえる感じ

という症状を示します。代表的にはガスや便秘でお腹が張る（腹部膨満感）、季肋部が張る（胸脇苦満）、みぞおちがつかえる（心下痞鞕）、咽がつかえる（梅核気）などです。

また、気は軽く移動しやすいので、

- 症状の場所が動きやすい
- 時間により症状が変化しやすい

という傾向もあります。

気滞は精神症状にもつながりやすく、ストレスの影響も受けやすいので

- 抑うつ傾向
- イライラ傾向
- ストレスにより増悪、出現する様々な症状

も気滞の重要な所見となります。

気滞に効果のある生薬→「理気薬」

厚朴

紫蘇葉

柴胡

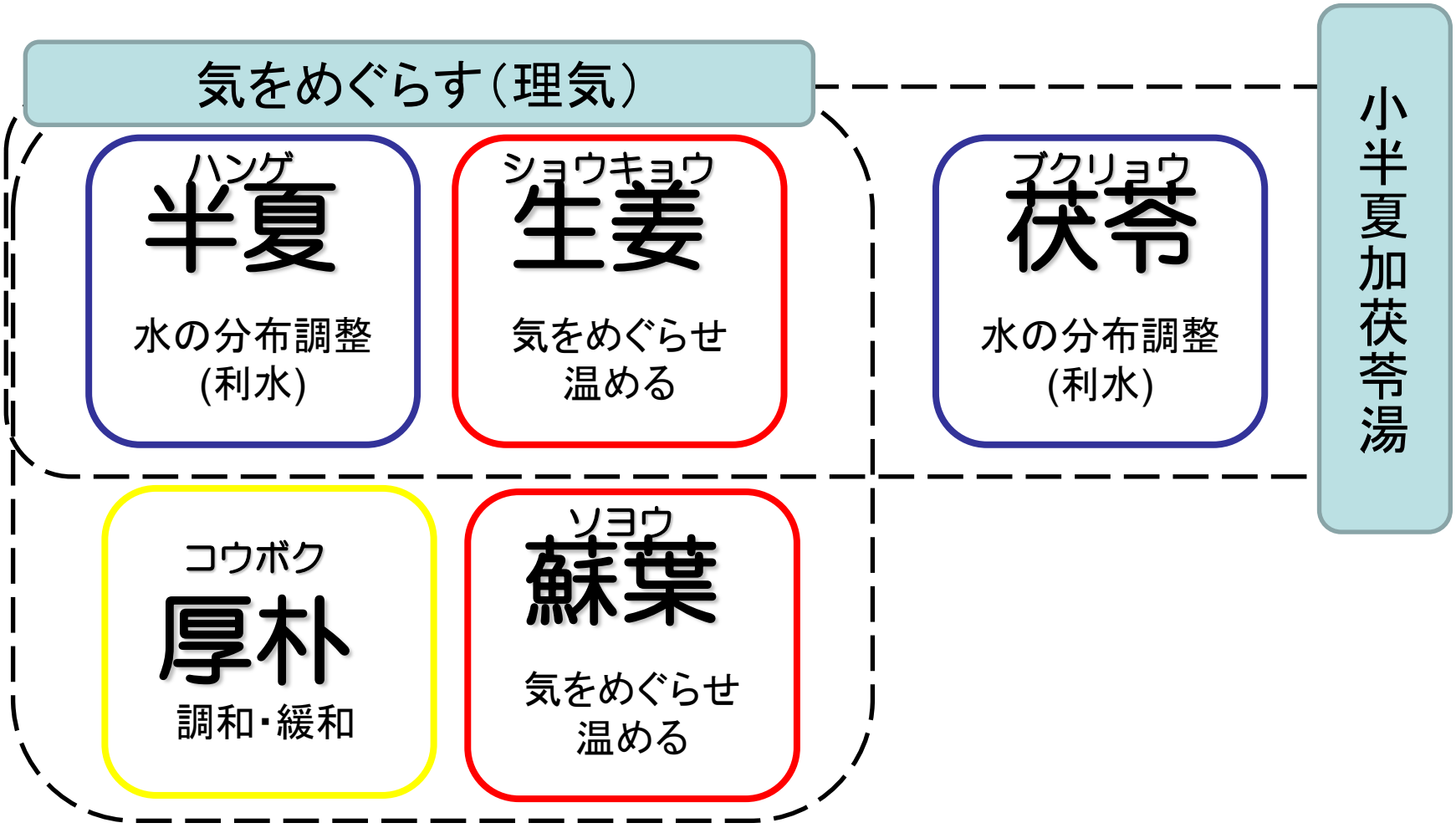
基本病態に対する10方剤と構成生薬

基本病態	基本方剤	構成生薬
気虚	四君子湯	人参、茯苓、白朮、甘草
気逆	苓桂朮甘湯	茯苓、桂枝、白朮、甘草
気鬱(気滞)	半夏厚朴湯	厚朴、蘇葉、半夏、生姜、茯苓
血虚	四物湯	地黄、当帰、芍薬、川芎
瘀血	桂枝茯苓丸	桂枝、茯苓、牡丹皮、桃仁、芍薬
水湿(水毒)	四苓散(五苓散)	白朮、茯苓、沢瀉、猪苓
裏寒	人参湯	人参、乾姜、甘草、白朮
実熱	黄連解毒湯	黄連、黄芩、黄柏、山梔子
表虚(解表)	桂枝湯	桂枝、芍薬、甘草、大棗、生姜
肝気鬱血(和解)	小柴胡湯	半夏、人参、甘草、生姜、大棗、柴胡、黄芩

「気滞」に用いる代表的な処方

- 半夏厚朴湯
（厚朴、蘇葉を配合）
- 香蘇散
（蘇葉を配合）
- 四逆散(柴胡、枳実を配合）

半夏厚朴湯の構成生薬


気をめぐらす（理気）
小半夏加茯苓湯
ハンゲ
半夏
水の分布調整
(利水)
ショウキョウ
生姜
気をめぐらせ
温める
ブクリョウ
茯苓
水の分布調整
(利水)
コウボク
厚朴
調和・緩和
ソヨウ
蘇葉
気をめぐらせ
温める

半夏厚朴湯　処方解説

- 小半夏加茯苓湯に理気薬である厚朴、蘇葉を加味したもので、降性薬である半夏、厚朴が作用の主役を担っている。半夏は生姜、茯苓とともに胃部の水分代謝を正常化し、悪心や嘔吐を治す。厚朴は気の鬱滞を疎通しめぐりをよくする。蘇葉が気を下し胸のつまり感や不快感、嘔吐を緩和し、茯苓が脾胃を補い胃腸の働きを助け、安神に働き、処方として軽度の抗うつ作用がある。

添付文書から見た「半夏厚朴湯」

◎効能・効果

気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う次の諸症：

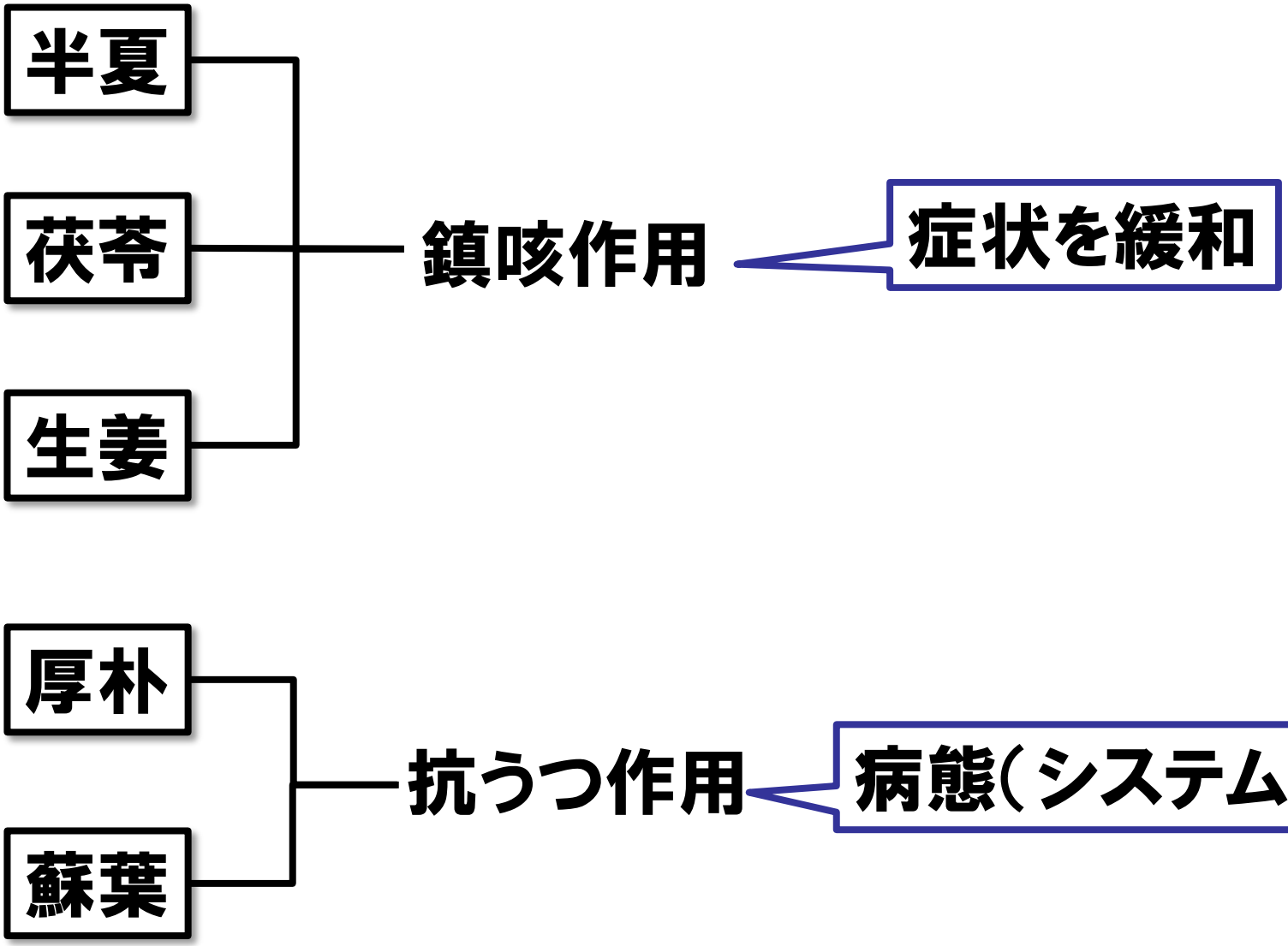
不安神経症、神経性胃炎、つわり、せき、しわがれ声、神経性食道狭窄症、不眠症

古典（金匱要略）からみた半夏厚朴湯

「婦人、咽中炙臠有あるが如きは半夏厚朴湯之を主る。」

「婦人で咽の中にあぶった肉片があるように感じる者は、半夏厚朴湯が治療する。」

「半夏厚朴湯」の処方構造



添付文書から見た服薬指導
半夏厚朴湯

◎効能・効果

抗うつ作用（厚朴、蘇葉）

気分がふさいで、咽喉、**食道部に異物感があり**、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う次の諸症：

不安神経症、神経性胃炎、つわり、せき、しわがれ声、**神経性食道狭窄症**、不眠症

鎮咳作用
（半夏、生姜、茯苓）

半夏厚朴湯　関連処方まとめ

- 小半夏加茯苓湯：抑うつ傾向や咽喉のつまり感がない悪心、嘔吐。つわりや、乗り物酔いに有効。

- 柴朴湯：半夏厚朴湯＋小柴胡湯

  胸脇苦満、食欲不振、全身倦怠感を伴う咳嗽。

例)「半夏厚朴湯」のSOAP薬歴

S:患者の主症状(患者が訴える自覚症状)

・のどのあたりが痞える、咳が出る、声が枯れる

・眠れない、些細なことが気になる

O:客観的情報

(患者が訴える症状以外で確認できる症状)

・咽頭や食道部の異物感がある動悸(心悸亢進)

・吐き気はないか?

・神経質な性格、ノイローゼ傾向

漢方書籍の紹介

・基礎理論

「東洋医学の教科書」（平馬直樹）　中医学

「漢方薬の考え方、使い方」（加島雅之）　中医学

・処方解説

「漢方２１２の使い方」

・生薬解説

「漢方210処方生薬解説」

・臨床応用

「漢方診療のレッスン」（花輪壽彦）　古方派

「病名漢方治療の実際」（坂東正造）　山本流

「継承漢方による匙加減」（吉岡孝麿）

「山本巌流漢方入門」（新井吉秀）